



依頼者の配偶者（以下「本人」と記す）は会社員で、頻繁に「同僚が所有している空き家に泊まる」と称し、週末は殆ど帰宅しない。機種変更して放置されていた古い携帯端末から、不貞相手らしき人物Aとその自宅らしき住所（コーポ）が浮上した。本人は不貞相手のコーポに泊っているものと考えられ、離婚調停や慰謝料請求のために、不貞行為の証拠を取りたい。

調査内容

ご依頼者と打ち合わせを行って実施日を取り決め、指定日の18時から、本人の職場とコーポの両方で張り込みを開始した。コーポの住戸にはAの姓が表示されている。

19時半、社屋から出てきた本人を捕捉し、尾行開始。本人はバスと電車を使い継ぎ、最寄り駅で下車後、駅前のスーパーで食材等を購入して、21時ごろコーポに着き、自ら住戸ドアの鍵を開けて入室した。間もなく駅方面から、Aらしき人物も現れてコーポに至り、本人が入室したのと同じ住戸に入った。その後、23時半にすべての部屋の明かりが消灯したが、しばらく経っても本人やAの退出は認められない。ご依頼者に経過報告して協議し、このまま宿泊する可能性が高いと判断、24時に初日の調査を終了した。

翌朝6時、再び不貞相手のコーポへ赴き、2日目の調査を開始した。昨夜から今朝まで、住戸のドアが開閉した形跡がないことを確認した上で、張り込みスタート。7時半すぎ、本人がコーポの住戸から退出し、最寄り駅方面へ歩き去る。不貞相手であるAについて情報を得るため、張り込みを継続する。

9時半にAがコーポから退出し、バスと電車を使い継いで行く。電車内では「販売士試験」の問題集を眺めている。目的地らしき駅で電車を降りて駅前の複合商業施設に至り、搬入口の傍にある従業員専用の通用口から、ICカードを操作して館内に入って行く。11時の営業開始を待って館内を探索したところ、フロア内で就労しているAの姿が確認された。

不貞相手が、事前情報のAに相違ないこと、加えてAの職場も把握に至れたため、ご依頼者と協議し、必要十分な証拠が収集できたとして、この時点で調査を終了した。

経験豊富な調査スタッフ
による行動調査

証拠写真・画像つきの
レポート提出

適正で分かりやすい
料金体系

所要費用など、詳細はお問い合わせ下さい。